

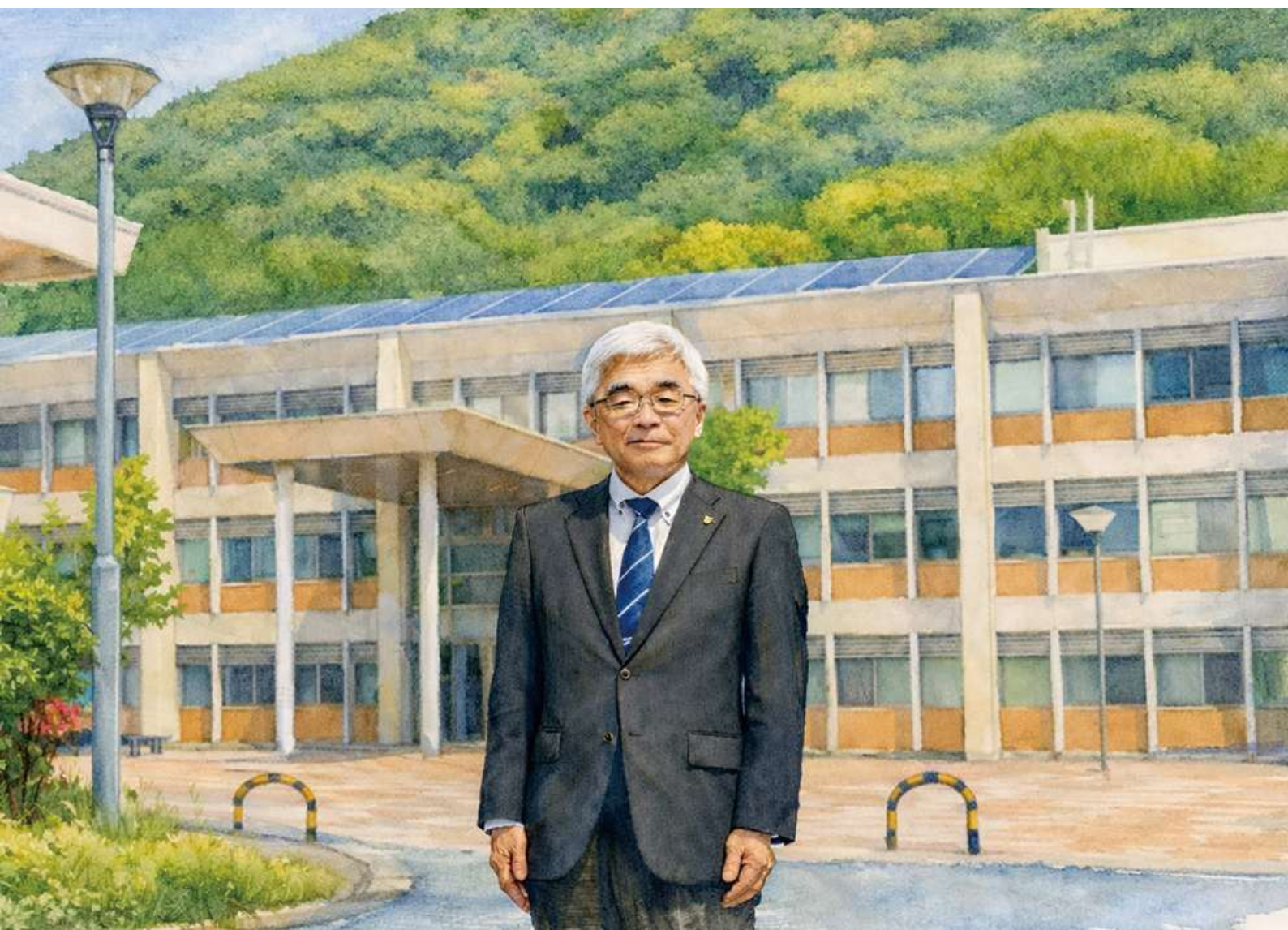
JOYAMA NEWS

University of Teacher Education Fukuoka
Campus Magazine

vol.
59
2026 Winter
Joyama 通信
福岡教育大学広報誌



国立大学法人
福岡教育大学



- 特集1 > 6年間の軌跡～学長としての歩み～
- 特集2 > 教員採用試験合格状況
- 特集3 > 大学生協の食をお届けします！！

6年間の軌跡

～学長としての歩み～

令和8年3月31日をもって退任する飯田慎司学長に、福岡教育大学長としての6年間を振り返っていただきました。

学長としての6年間を振り返って

令和8年3月末日をもって本学学長を退任いたします。この6年間を振り返りながら、私の所感を示します。



新型コロナウイルス感染症の対応から始まった大学運営

令和2年4月、国の緊急事態宣言を受けて、本学は入構禁止措置を取りましたが、自宅で学べる遠隔授業のための準備を重ね、5月11日から実施できるようにし、6月15日以降、対面授業を段階的に開始し、それ以降、対面授業の割合を次第に増やしていきました。

新型コロナウイルスの5類感染症移行後は、次第に従前の状況が戻ってきましたが、現在でも授業内容に応じて、対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施している場合が多いと思います。授業だけでなく会議や研究会等でも、対面参加とWEB参加とが選択できる場合が多く、この6年間で教職員の業務の形態が大きく変化してきたように思います。



コロナ禍の卒業式(令和3年3月25日)

教員就職の高水準を維持しながらの学部教育改革

本学は教員就職者数と教員就職率がともに全国トップクラスにあります。この高水準を維持しながら、小学校の教科担任制等に対応し学修者本位の教育を実現するために、令和5年度入学生から適用した学生組織改革、学位プログラムの中で各課程の主専攻に加えて〈選択領域〉を設定して学生の多様性に応じるカリキュラム改革、そして入学者選抜をプログラム単位で実施して学位プログラムの円滑な履修を可能とする入試改革を実施しました。副専攻を取得するための副専攻プログラムだけではなく、特別支援教育やデータサイエンス・AIなどの副専攻科目パッケージを用意して、学生の皆さんの多様性や学修意欲に対応できるようにしています。



CONTENTS vol. 59

- 02 特集
6年間の軌跡
～学長としての歩み～
- 04 特集
教員採用試験合格状況
- 12 特集
大学生協の食をお届けします!!
- 13 教員紹介
技術教育研究ユニット
石橋 直准教授
- 14 教育改善レポート
- 16 福教大NEWS
- 20 サークル紹介
飛笑
陸上競技部
- 21 第38回 福教大卒OB&OG紹介
福岡教育大学附属小倉小学校 教諭
日高 慎一朗さん
- 22 TOPICS
本の道しるべ
- 23 後援会・同窓会からのお知らせ
後援会
同窓会・城山会
福岡教育大学基金のご案内
アンケートに答えて
福教大オリジナルグッズをGET!

教職大学院の改革と博士後期課程の設置

国の方針によって教員養成課程の上に置かれていた修士課程は教職大学院に一本化され、本学の修士課程も令和3年度から募集停止し、その代わりに、教職大学院の中に教科教育等のコースを加えることにしました。本学学部からの進学者だけではなく、福岡女学院大学、筑紫女学園大学、そして福岡工業大学と協定書を交わして、各大学の学部卒業生が本学教職大学院に進学して学修を重ね、修了後は自信を持って教職生活をスタートさせることができるようにするための改革を行いました。

令和7年度からは特別支援教育向上コースを設置しましたが、これは、特別支援学校にかかる教員養成の高度化や教員研修の充実に向けたもので、次ページで述べている特別支援教育の拠点化の一環であるということができます。

さらに、令和7年度から、北海道教育大学、大阪教育大学との共同教育課程による博士後期課程を設置することができました。教職大学院の修了者等に出願資格を与えられる本課程では、臨床的研究を中心として、理論と実践の往還を図りながら、大学での教員養成教育や学校教育現場での活躍が期待される人材を輩出していくことが期待されています。



北海道教育大学、大阪教育大学、福岡教育大学「共同教育課程による博士後期課程の設置に関する協定書」締結式(令和6年1月17日)

特別支援教育の拠点化への展望

令和6年度に特別支援教育センターを教育総合研究所から独立させて改組しました。さらに、令和7年度に国立特別支援教育総合研究所との連携協力に関する協定書を締結するとともに、特別支援教育科目パッケージを開始しました。令和9年度に必修(または選択必修)化する予定です。特別支援学校の教員免許を取得しなくても、公立の小学校等で特別支援学級の担任になったり、通常学級で



国立特別支援教育総合研究所と連携・協力に関する協定を締結(令和7年7月4日)

も特別支援(インクルーシブ)教育が必要となったりする場合に少しでも適切な指導ができる力をつけて卒業してほしいと願っています。

令和8年4月に福岡県立むなかた特別支援学校が本学敷地内に開校しますので、連携協力を図りながら、本学では、学部教育、教職大学院教育、教員研修、そして教育相談等の特別支援教育に関する活動を積極的に行っていくことを計画しており、特別支援教育の拠点と呼ばれるようになっていきたいと思っています。

その他の改革について

本学は、学校現場の先生方の教員研修にも貢献しています。教員研修に利用できる動画コンテンツの開発、各種研修会の実施、そして福岡県や福岡市、北九州市の教育センターとの協議会も設置して連携を図っております。近年、教員免許状更新講習が廃止され、学校現場の先生方の教員研修は大きな転換点を迎えていますので、九州教員研修支援ネットワークの事務局を務めている本学は、教員研修の改善のために、教育委員会や教育センターとの情報共有や意見交換等を積極的に行ってきております。

附属学校の改革も行いました。長年、公立の小学校や中学校で校長を務めておられる方が本学の附属学校に交流人事で来られた場合、副校長として勤務いただいております。しかしながら、校長を専任化して、大学からの兼任校長だったポストは附属学校副部長としました。また、教頭の専任化にも取りかかっております。加えて、附属学校に関しては、3附属キャンパスに設置されたフューチャークラスルームを活用した教育研究の発展にも大きな期待を寄せております。

最後に、卒業生への支援についても改革を行いました。卒業生連携室を設置して、卒業あるいは修了後の双方向の連絡を可能にして、まずは、大学からの情報発信を充実させているところです。成績証明書や卒業証明書等のオンライン申請や簡易取得も可能となりました。

学長としての6年間を振り返りながら寄稿させていただきましたが、ご支援いただいたすべての皆様に心からの御礼を申し上げます。ありがとうございます。

飯田 慎司

特集2 教員採用試験 合格状況



今年度も、教員採用試験合格状況をお伝えする時期となりました。

令和7年度実施の教員採用試験では、昨年に引き続き高い合格実績を収めました。今年度も合格者数が前年度を上回り、過去最高となりました。多くの学生が、「教員になる」という夢を現役合格という形で実現しています。これは学生たちが、入学当初から「高い志」を持って採用試験に臨み、継続した努力の賜物と言えるでしょう。また、臨時的任用教員のための「福岡教育大学講師等希望者名簿」に登録するなどのステップを踏み、新たな道を歩み始める学生もおります。どのような方向から社会に出ていく道であっても、すべての道は繋がっています。途中で諦めることなく、光が見えてくる突破口がみつかるまで、真に挑戦したい未来に向かって進んで行ってほしいと願っています。

本学の使命は、九州・沖縄地方における教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続ける有為な教育者や、実践力のある質の高い教員を養成することにあります。学生一人ひとりが自分の夢を実現できるように、教職員一同、学生の学びとキャリア形成支援を全力でサポートしていき、日々、試行錯誤しながら工夫を行っています。

本キャリア支援センターでは、そうした大学の方向性を受け、全学的な立場からキャリア形成支援を行っています。特に、1年次から4年次まで受講可能な「教員採用試験のための特別講座」などを開講し、進路相談、筆記試験、面接、集団討論、模擬授業対策に至るまで、きめ細かい指導を連続発展的に行っています。このシステムにより学生のチャレンジを多面的にサポートしています。これらの取組は、キャリア支援センターのスタッフ、とりわけ最前線であたたかく見守って下さっている就職支援アドバイザーや、特命教授の先生方のご尽力によるところが大きい活動となっています。アドバイザーの先生方は、全員、校長職経験者であり、苦心している学生たちをサポートし、不安を軽減し、彼らの前進を勇気づける体制を組み、日々の対応をしてくださっています。

教育は、将来の社会を根底から支える重要な役割を担っており、公共性の高い営みです。本学はその期待に応えるべく、教員養成の拠点大学として求められる教育人材を養成し、社会の発展に貢献していきます。本学へ入学したすべての学生が、卒業後も、本学に入学して良かったと思える体制づくりを、今後も模索し続けていきたいと考えています。

キャリア支援センター長 清水 知恵

教員採用試験合格状況

令和7年度実施の教員採用試験の出願及び合格状況は、〔表1〕のとおりです。出願者数は昨年度より増加し、入学時から4年次までの高い教員志望度を反映して、昨年度よりも多くの合格者を出すことができました。教員採用試験に向けた日々の努力が実を結び、高い合格率を維持しています。

また、自治体別の合格者の内訳は〔表2〕のとおりです。昨年度と比較すると、福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県が増加し、九州・沖縄地区全体での合格者数は昨年度を上回りました。

〔表1〕公立学校教員採用試験の校種別合格状況

(令和7年11月7日現在)

実施年度	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				その他				合 計				
	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	合格実人数
R7	435	389	322	74.0	142	127	100	70.4	63	47	28	44.4	54	51	41	75.9	—	—	—	—	694	614	491	70.7	445
R6	397	378	323	81.4	120	108	82	68.3	61	39	28	45.9	57	54	42	73.7	—	—	—	—	635	579	475	74.8	436
R5	398	372	304	76.4	116	101	83	71.6	59	36	21	35.6	66	61	45	68.2	1	1	1	100	640	571	454	70.9	425

※1 出願者数、一次合格者数及び最終合格者数は延べ人数 ※2 令和7年度は、令和7年11月7日現在の暫定値 ※3 各数値は、教育学部4年生、大学院生、教職大学院生及び特別専攻科生の状況

〔表2〕公立学校教員採用試験の自治体別合格状況

(令和7年11月7日現在)

実施年度	自治体	九州・沖縄										小計 (九州・沖縄)	
	福岡県	北九州市	福岡市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県		
R7		169	43	97	18	28	16	7	9	9	13	1	410
R6		156	49	119	12	17	14	17	7	6	8	3	408
R5		149	47	117	12	21	11	8	13	8	14	4	404

	山口県	広島県・市	岡山県・市	島根県	香川県	愛媛県	兵庫県	愛知県	横浜市	東京都	その他	合計(全国)
R7	12	19	3	4	2	4	4	3	2	7	21	491
R6	10	16	5	6	4	4	2	1	4	2	13	475
R5	7	17	4	2	1	0	1	3	2	4	9	454

※1 数値は延べ人数 ※2 令和7年度は、令和7年11月7日現在の暫定値 ※3 各数値は、教育学部4年生、大学院生、教職大学院生及び特別専攻科生の状況



福岡市教員採用試験
小学校 合格

初等教育教員養成課程 4年

おお く ぼ な つき
大久保 菜月さん
福岡県立香住丘高等学校出身

① 福教大での学びについて

ウィスコンシン大学ラクロス校短期研修

私は、2年次にアメリカのウィスコンシン大学ラクロス校短期研修に参加しました。この研修での経験は、自身を大きく成長させたと感じています。高校生の時に新型コロナウイルスの影響でオーストラリアへの修学旅行が中止となったため、この研修が私にとって初めての海外経験でした。

研修では、英語の授業や現地学生との交流、ホームステイに加え、地域の幼稚園から高校までを訪問し、授業見学や日本文化を紹介する活動を行いました。現地学生との交流を通して、異文化を受け取るだけでなく、自らの文化を発信することの難しさと楽しさの両方を実感しました。英語で日本文化を説明し、相手に興味を持ってもらえた経験は、大きな自信につながりました。

学校訪問では、日本とアメリカの教育の違いにも気づきました。教室には複数の種類の机や椅子が置かれ、プレイマットや大きなクッションがあるなど、日本の特別支援学級のような学習環境が整えられていました。特に印象に残ったのは、校内でセラピードッグを見かけたことです。人と触れ合うことで心のケアを行うセラピードッグが、学校現場でも活用されていることに驚きました。

この3週間の滞在を通して、日本にいただけでは得られない多くの気づきがあり、日本の良さを改めて見つめ直す機会にもなりました。教員になった際には、この経験を生かし、異文化を尊重し自文化を大切にす姿勢や、異文化を知る楽しさを子どもたちに伝えていきたいと考えています。



ウィスコンシン大学ラクロス校での研修中の様子

教員採用試験対策

私が本格的に教員採用試験対策を始めたのは4年次の春からです。一次試験は免除だったため、友人が一次試験の勉強を進めている中、自分は何をすればよいかわかりませんでした。そんな時にお世話になったのが、キャリア支援センターの先生方です。キャリア支援センターでは、教員採用試験の対策講座が開講されています。二次試験対策として、同じ自治体を受験する学生と毎週1回集まり、キャリア支援センターの先生に模擬授業や面接試験の対策をしていただきました。過去問を用いて実践練習を行い、話し方や目線、板書など細かいところまで丁寧に教えていただきました。キャリア支援センターの先生、そして、採用試験に向けて切磋琢磨し合った友人たちには本当に感謝しています。これから教員採用試験を受験する後輩の皆さんもぜひ教員採用試験の対策講座に参加してみてください。

② 教員として働くことへの意気込みについて

私は、春から福岡市の小学校教員として働きます。子どもたちと共に成長できる教育現場に立てることに期待を感じる一方で、責任の重さに不安も感じています。しかし、大学で学んできた教育に関する知識や実習、アメリカでの経験などを生かし、前向きに取り組んでいきたいと考えています。特に、子ども一人一人の思いや個性を大切に、安心して学べる学級づくりを心がけたいです。分からないことや困難に直面した際には、先輩教員の方々から学び続ける姿勢を忘れず、子どもたちに信頼される教員を目指して努力していきます。



ウィスコンシン大学ラクロス校短期研修



現地で日本文化を紹介



現地での授業の様子



北九州市教員採用試験 中学校技術科 合格

中等教育教員養成課程
技術専攻 4年

お ば た ま さ き
小島 理希さん
九州国際大学付属高等学校出身



研究室活動の一環で取り組んだ「うきうきTeacher!〜教師の魅力発見プログラム〜」(ボランティア)の様子

①福教大での学びについて

教育実習

本学は、他大学と比べて教育実習の機会に恵まれており、1年次から学校現場に出向く機会があります。中でも、3年次の附属実習が特に印象に残っています。附属実習では、実習指導の際の注意点やICT機器の活用方法について丁寧に指導して頂きました。この学びは、教員採用試験の模擬授業に役立ったと感じています。また、全学年の授業を担当させて頂きました。技術科の教員は各学校に1名しか配置されていないことが多く、その場合、必然的に全学年の授業を担当することになるため、現場に出た際の練習の機会となりました。4年次には、小・中学校それぞれで実習させて頂き、附属学校と公立学校の雰囲気の違い、小学校と中学校の発達段階の違いについて学ぶことができました。これらの経験は、私にとって大きな財産です。

教員採用試験対策

キャリア支援センター主催の教員採用試験対策講座に2年次から参加し、一次試験で出題される教職教養(心理学や教育法規等)の内容について学び始めました。一次試験は免除だったのですが、二次試験の個人面接や集団討論に生かされたと感じています。4年次からは、二次試験の自治体別対策講座に参加するようになりました。新しくできた他教科の友人達と、切磋琢磨しながら模擬授業の技術を磨き合い、集団討論の練習を重ねました。個人面接で話す内容や事前に提出するプロフィールシートについては、コーディネーターの先生に細かく添削して頂きました。早期から教員採用試験対策講座に参加したこと、「教員になりたい」という同じ志を持った仲間に出会えたこと、コーディネーターの先生に手厚いサポートをして頂いたことで、今回、合格を勝ち取ることができたと感じています。

ぜひ、これから教員採用試験を受験される方には、教員採用試験対策講座の活用をおすすめしたいです。

課外活動(ボランティア、サークル活動など)

ボランティア活動に300時間以上取り組み、ボランティアリーダーに認定して頂くとともに、ボランティア活動報告会では私の経験を発表させて頂く機会に恵まれました。よく、採用試験の際にプロフィールシートの「大学生活で頑張ったこと」に何を書けば良いかわからないという方がいるのですが、私は、自信を持ってこのボランティアの経験を書くことができました。ぜひ、部活動や研究など何でも良いので、大学生活の中で何か1つ、「他の人よりも頑張った」と思える経験を積んでほしいと思います。

②教員として働くことへの意気込みについて

私は、中学生の頃から「教員になりたい」という強い思いを持っています。その気持ちは、今も変わっていません。そのため、教員採用試験に合格し、夢を叶えることができたことを心から嬉しく思っています。また、夢を叶えてくれた福教大には、とても感謝しています。これから、どのような子ども達に出会えるのかとても楽しみな一方で、不安な気持ちも持っています。最初は、分からないことだらけで周りの先生方にご迷惑をおかけしてしまうこともあるかもしれませんが、ですが、謙虚に学ぶ姿勢と報告・連絡・相談を大事にしながら奮闘したいと思います。



ボランティア活動報告会での実践報告の様子



附属実習における査定授業(観察参加代表授業)での板書とICT活用



福岡県教員採用試験 特別支援学校教諭(小学部) 合格

特別支援教育教員養成課程 初等教育部
言語障害児教育専攻 4年

こ がね まる しょう すけ

小金丸 彰将さん

福岡県立朝倉高等学校出身

① 福教大での学びについて

教育実習

教育実習では、附属小学校と特別支援学校の二校で実習を行い、それぞれで大きな学びがありました。附属小学校では、図画工作科の授業を担当し、子どもも自分も楽しめる授業を目指して教材研究に取り組みました。指導教員の先生方からの確かな助言をいただきながら、子どもたちが主体的に活動できるよう工夫を重ね、のびのびと授業を行うことができました。一方、特別支援学校での実習では、子どもたち一人ひとりの特性に応じた関わりの大切さを学びました。日々の関わりの中で、子どもたちの小さな成長に気づくことの喜びを感じ、多くの素敵な先生方との出会いも自身の大きな財産となりました。また、本実習につながる基礎実習では、学生同士で協力して一つの授業をつくり上げる経験をしました。福岡教育大学の实習は、事前・事後の指導やサポートが充実しており、教育実習生として多くのことを学べる点で大変恵まれた環境であると感じています。

教員採用試験対策

教員採用試験対策においては、大学で実施されている採用試験対策講座を積極的に活用しました。特に二次試験対策では、面接や模擬授業について丁寧な分析と具体的な助言をいただき、合格までの道筋を明確に示していただきました。面接や模擬授業は一人で取り組むだけでは改善が難しい部分も多いですが、講座を通して客観的な視点から指導を受けることで、着実に力を高めることができ、自信をもって試験に臨むことができました。



教育実習での写真

課外活動(ボランティア、サークル活動など)

私は、ダウン症のある子どもたちと関わるボランティアサークル「こぼとの会」に所属していました。二泊三日のキャンプでは、学生チーフとして企画・準備・運営に携わり、子どもや保護者の方々と深く関わる貴重な経験をさせていただきました。また、言語障害や聴覚障害、学習障害のある子どもたちとの療育活動にも参加し、様々な背景や特性をもつ子どもたちと関わる機会を得ました。これらの経験を通して、子ども一人ひとりの存在を尊重し、その子に合った支援や関わりを考える姿勢が身についたと感じています。このような実践的な学びを重ねることができたのは、多様な学びの機会を提供してくださる大学の教育環境と、丁寧に指導して下さる先生方の存在があったからこそだと感じています。

② 教員として働くことへの意気込みについて

私は再来年の春から、福岡県の小学校教員として働きます。子どもに寄り添い、安心して学校生活を送ることができる存在として、一人ひとりの成長を支えられる教員になりたいと考えています。大学での学びや教育実習を通して、様々な背景や個性をもつ子どもたちと関わる中で、すべての子どもがかけがえのない存在であり、その思いや感じ方を大切にする事の重要性を実感しました。教員として現場に立つことに不安を感じることもありますが、それ以上に子どもたちと日々向き合えることへの期待の方が大きいです。困ったときには同僚や先輩教員から学び、支え合いながら成長し続け、子どもたちの力を引き出せる教員を目指して努力していきます。



基礎実習での写真



ボランティアサークル「こぼとの会」



長丘幼稚園
幼稚園教諭 採用

初等教育教員養成課程
幼児教育選修 4年

さか い ゆ い
酒井 唯衣さん

長崎県立西陵高等学校出身

①福教大での学びについて

幼児教育選修での学び

大学での学びの中で最も印象に残っているのは、教職実践演習で参加した「GO!GO!ようちえん」です。4年間共に学んできた友人と信頼関係を築いた上で、それぞれがこれまでの講義や実習で得た学びを持ち寄り、一から保育を創り上げる経験は、これまでの集大成ともいえる時間でした。子どもの姿を予想しながら環境構成を考えたり、活動のねらいを話し合ったりする中で、自分とは異なる視点や考え方に触れることができました。仲間と意見を出し合い、時には悩みながら一つの保育を形にしていく過程を通して、大きな達成感と自身の成長を感じました。同時に、実践の中では自分の未熟さや課題にも気づき、一緒に働く仲間との信頼関係の大切さを改めて実感しました。

また、同じ志を持つ友人に囲まれた環境で学べたことも、私にとって大きな財産です。大学では取得できない保育士資格の取得にも挑戦し、授業や実習と並行しながら互いに励まし合って試験に臨みました。情報を共有し、分からないところを教え合いながら努力を重ねた経験は、自分一人では得られなかった力につながっています。支え合い、高め合える仲間の存在があったからこそ、自信を持って幼稚園の採用試験にも挑むことができたと感じています。

幼稚園の採用試験に向けた就職活動は、4年生の4月頃から本格的に始めました。インターネットで園について調べ、少しでも気になった園があれば積極的に見学や自主実習に参加させていただきました。説明会やホームページだけでは分からない園の雰囲気や保育者同士の関係性は、実際に足を運ぶことで初めて見えてくるものが多いと感じました。8月には福岡市の就職フェアに参加し、さまざまな園の話を直接伺いました。その後も見学や自主実習を重ねる中で、自分が大切にしたい保育観や、働く上で譲れない条件が少しずつ



幼児教育のクラスのみんなでスイカわりと花火をした時の写真

つ明確になっていきました。「自分とは少し違うかもしれない」と感じた園にもあえて足を運んだことで、自分自身を見つめ直す機会にもなりました。こうした経験が、自分に合った園との出会いにつながったのだと思います。

②幼稚園教諭を目指す後輩に一言

4月から「先生」という立場で子どもたちと過ごす日々が始まります。楽しい気持ちもありますが、正直なところ不安もたくさんあります。どんな毎日になるのだろうと想像しながら、私自身も緊張とわくわくが入り混じった気持ちでいます。これから出会う子どもたち一人ひとりと丁寧に向き合い、私も子どもたちと一緒に学び成長していける幼稚園教諭になりたいと思っています。

幼稚園教諭や保育士を目指している皆さんも、将来について悩んだり迷ったりすることがあると思います。私もそうでした。そんなときは一人で抱え込まず、友人や先生方に相談してみてください。周りの人に支えられながら進んできた経験は、きっとこれからの自分の力になります。皆さんが自分らしく輝ける場所と出会えることを心から願っています。私も一歩ずつ頑張ります。



授業の中でびかびかの泥団子を作ったときの写真



GO!GO!幼稚園に参加した時の写真



福岡県教員採用試験 高等学校(公民) 合格

大学院教育学研究科教職実践専攻
教育実践力開発コース 1年

やま ね けん た ろう

山根 健太郎さん

広島県立三原高等学校出身
長崎県立大学 地域創造学部
実践経済学科 卒業



大学院の友人と太宰府天満宮へ

① 福教大での学びについて

教職大学院進学を決めたきっかけ

私は幼い頃から教員という職業に憧れを抱いていたものの、大学は教育学部ではなかったため、教育に関する知識や実践経験の少なさに不安を感じていました。現場に出ると、勤務年数に関係なく、子どもたちから見れば同じ「先生」として見られます。そのため、この2年間で自信を持って教壇に立つ力を身に付けたいと考え、教職大学院への進学を決意しました。また、高校時代に進路に迷っていた際、そっと背中を押してくださった先生の存在が、高校教員を目指すきっかけとなりました。

教職大学院で学ぶことの良さ

教職大学院の最大の魅力は、「教員」という同じ目標をもつ仲間と学び合える点です。院生には、小・中・高等学校や特別支援教育など、さまざまな校種を専門とする学生や、現場経験が豊富な現職派遣の先生方が在籍しています。多様な視点から教育について語り合うことで、教育現場のリアルを意識しながら学ぶことができます。授業では、「一教員として何ができるのか」を考えるグループワークやディスカッションが中心で、仲間から多くの刺激を受けながら自身の教育観を深めることができます。また、教職大学院では、TAインターンシップや教育実践コラボレーション実習など、自分の専門校種に留まらない多様な実習が用意されています。「理論と実践の往還」のもと、日々の授業やゼミでの学びをTAインターンシップで生かし、学びを深めていくというサイクルが、自分が教員になりたい・現場で活躍したいという思いをさらに強めてくれます。

同じ志(教員志望)を持つ友人との出会い

院生の仲間とは、日々の講義や授業づくりの悩みを語り合いながら、互いに支え合って学んでいます。「教員」という同じ志を持つからこそ築ける特別な関係だと思っています。休日には一緒に出かけ

ることも多く、友人であると同時に家族のような、私にとってかけがえのない大切な存在です。

教員採用試験対策

大学院に進学すると、自治体によっては修了を条件に1次試験が免除となる制度があり、私はその制度を活用して5月下旬から対策を始めました。既に合格している仲間や、豊富な経験をお持ちの先生方に模擬授業や面接を中心にご指導いただき、自分なりにノートを作成して課題を整理しました。学部時代に不合格だった悔しさを原動力に対策を進めていきました。対策中に体調やメンタル面が優れない時もあったのですが、直向きに努力を重ねる仲間の温かい言葉に何度も助けられました。仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。

② 教員として働くことへの意気込みについて

私は再来年の春から、福岡県の高等学校公民科の教員になります。幼い頃からの夢が叶うことに喜びを感じると同時に、どのような生徒や先生方と出会えるのか、今からわくわくしています。一方で、現場に出るまで残り1年間しかないという責任や緊張も感じており、自分に足りないものをスポンジのように吸収して成長していきたいと考えています。実際の教育現場では、喜びを感じる一方で、困難や悩みに直面することも数多くあると思います。そんな時は教職大学院で出会った仲間との学びや大切な思い出が、必ず自分を支えてくれると確信しています。この1年間、辛い時期にいつも支えてくれた仲間のような素敵な教員になれるよう、今共に学んでいる時間に感謝しながら、「一生勉強、一生青春」の気持ちを胸に、走り続けていきたいです。



西岡ゼミの風景



M1の皆で城山へ



院生間で試験対策



試験対策用のノート

教員採用試験合格に惜しくも あと一步届かなかった人へ

教員採用試験合格を目指してがんばってきたが、惜しくもあと一步届かなかった人もいます。

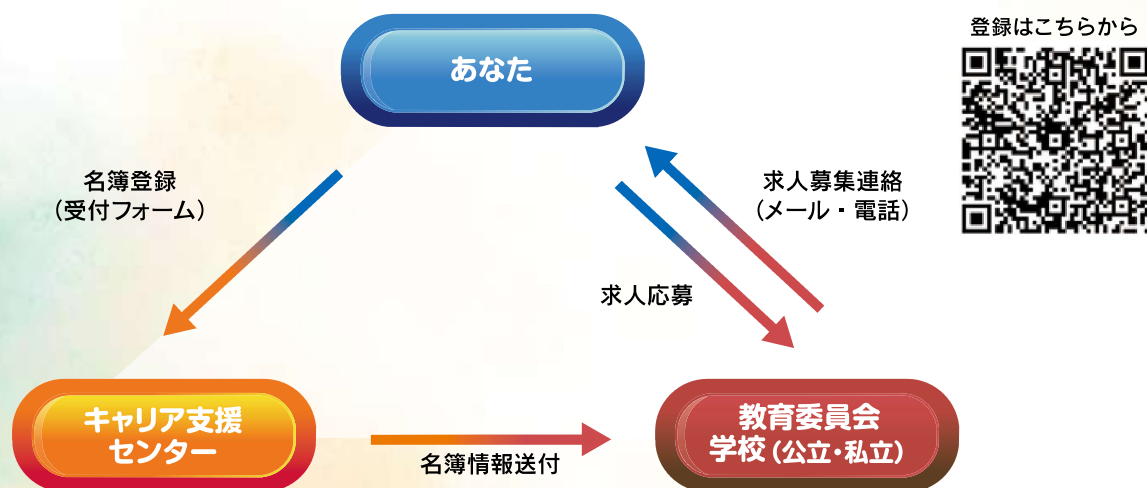
大切なことは、まずここで教師を目指す気持ちや信念をもう一度確かめることです。

そして、自分の課題はどこか、何を伸ばせばいいのかという自己分析を改めて行うことです。

自分の目標をしっかりと定め、具体的な方策を考えて実行していくことで、今後の生活をよりよい充実したものにしていきましょう。具体的な進路選択の例をご紹介します。

選択肢の例	特徴
①公立学校の 講師に就職	教育現場で経験を積み、教師としての実践力（学級経営、指導力など）を身に付ける機会に恵まれています。収入が得られるのもポイントです。働きながら教員採用試験に向けた受験勉強を行うことになるので、筆記試験のための勉強時間作りに努力や工夫が必要です。
②私立学校の 教員・講師に就職	現場経験を積んで、教師としての実践力を身に付けられる点や、収入が得られる点は公立学校と同じです。公立学校のような転勤がない学校が多いため、長年にわたって勤務する場合は自分の経験を生かしやすいです。学校にもよりますが、少なくとも一年間は講師（雇用期間の定めのある職）として採用されることが多いです。
③教職大学院へ進学	教職についての理論と実践を深く学ぶことができます。公立学校教員採用試験の受験時に特例措置（試験科目の一部免除、合格後に大学院修了まで採用を待ってもらえるなど）を設けている自治体が増えてきています。進学にあたっては授業料等が必要になります。（奨学金を活用することも可能です。）

「福岡教育大学講師等希望者名簿」に登録しよう！



※連絡先変更や情報提供不要になったらキャリア支援センターへ連絡を！

TEL:0940-35-1249 FAX:0940-35-1759 E-mail:csc-jimu@fukuoka-edu.ac.jp

「福岡教育大学講師等希望者名簿」は、教育委員会等が作成する講師名簿等とは異なり、キャリア支援センターが独自に作成している名簿です。講師を募集する学校等（教育委員会を含む。）に名簿登録者の情報を提供します。学校等から名簿登録者へ直接、求人募集の連絡があります。講師としての勤務を希望する自治体が明確な方は、それぞれの教育委員会への講師登録手続きも忘れずに行うことをお勧めします。

新入生必見！ 大学生協の食をお届けします！！

今回の特集では、本学の大学生協が運営する食堂や売店をご紹介します。

食堂LUCE(ルーチェ)



食堂の座席は全部で
約250席。食堂横にも2か
所飲食スペースがあります。

お昼休みは
ほぼ満席だから
注意だよ。



←福教大公式キャラ
フッキー

食堂では、定期的に期間限定メニューが提供されるフェアも行われています！

ご当地グルメをはじめ、管理栄養士さん考案のメニューなど、1年を通して様々なフェアが皆さんの大学生生活の食を彩ることでしょう！！



ショップVIOLA(ビオラ)



売店の目玉はなんといっても「焼きたてパン」です。
いつの間にも焼きたてに近い状態で並ぶよう補充されているそうです。



焼きたてを狙うなら
OPENすぐの時間が
おすすめです。



いま、新入生に
知ってほしい！

ショップでは、サークルLeafと共同で「リリパック回収活動」に取り組んでいます。エコでお得な取組です。ぜひご協力ください。

学生広報チームi-na!のInstagramはこちら。→



教員紹介



技術教育研究ユニット
いし ぼし ただし
准教授 石橋 直

出身地：福岡県
最終学歴：兵庫教育大学
大学院連合学校
教育学研究科
(博士課程)修了
取得学位：博士(学校教育学)
本学着任：2017年



教師になって何を為すか、 大学で人生設計を

専門の研究テーマについて

専門は電気に関するものづくり教育です。中学校技術・家庭科技術分野や高等学校工業科を主な対象にしています。ものづくり教育の中でも、特に「設計」に関する能力や教育方法に関心があり、「人はどうやって設計を行っているのか」「どうすれば設計ができるようになるのか」などの創造的な力について探究しています。



電気計測技術の授業(電子回路の設計)

研究成果の教育への還元について

大学での授業の他に、学校の先生方と一緒に授業づくりを行ったり、地域のワークショップに出展したりするなど、教育現場に向かう機会を増やすことを大切にしています。これまで、導電性テープを用いた回路製作教材や、磁石を使った回路設計教材などを開発し、教育現場に提供してきました。



LED点灯回路の製作

福岡教育大学で学ぶ学生に一言

教員免許を取得して教員採用試験に合格することがゴールではありません。その後、教師になって何をなすかが大切です。何のために学ぶのかを探究し、大学生活を送るなかで自身の宝を見つけてほしいと思っています。



授業の様子

大学教員に進むことになった きっかけについて

子どもの頃からものづくりが大好きだったので、将来はものづくりに関わる仕事をしたいと考えていました。学校の先生になれば、ものづくりの楽しさを皆で分かち合えると思い、本学を卒業して工業高校の教員になりました。その後、自身の実務経験を生かしつつ、幅広く教育現場に貢献できるような研究を行いたいと思い、大学教員へと進みました。

こだわりの物・考え・モットーについて

「照于一隅(一隅を照らす)」



電気計測技術の授業(オシロスコープを使った計測)

学年対抗技能コンテスト「技-1グランプリ」を開催しました

技術専攻では、5月に学年対抗技能コンテスト「技-1グランプリ」を開催しました。

日頃の実習での成果をもとに、「電気」、「機械」、「技術科教育」、「金属加工」、「生物育成」、「木材加工」、「情報」の7部門の技能を学年対抗で競いながら、学生間の交流、親睦を深めました。



電気部門の様子



イベント終了後の集合写真

University of Teacher Education Fukuoka

福岡教育大学 教育改善レポート

福岡教育大学では、国内外の社会が大きな転換期にあることを踏まえ、将来的な社会の変化を見据えて学校現場での実践能力の高い教員を養成するため、組織的な教育改善に絶えず取り組んでいます。本学の教育が今どのように進化し、どのような成果を目指しているのか、ステークホルダーの皆様幅広く共有し、さらなる質の向上へとつなげるため、最新の施策をまとめた「教育改善レポート」を公表いたします。

本レポートは、社会の要請や学生の声を起点とした具体的な教育改善の内容を網羅的にお伝えするものです。本学の教育の「今」と「これから」を共有しながら、一歩進んだ教員養成の実現を目指してまいります。

① 新設された現代社会の要請に対応する科目

科目名	概要
「データリテラシーⅠ」 「データリテラシーⅡ」	(R6後期～)教養科目として新設。文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定された。
「情報社会及び情報倫理」	(R6後期～)教養科目として新設。高度情報化社会への理解や情報倫理等についての理解を深め、ICT活用能力を高める。
「特別支援教育の基礎」 外、3科目	(R7前期～)教養科目として特別支援教育に関連する4科目を新設。特別支援教育に関する必要な基礎的・基盤的な資質・能力を身につけることができる。
「租税教育」	(R7前期～)日本税理士会連合会・九州北部税理士会と連携して新設。「租税」に関する認識形成を図るとともに、児童生徒への指導計画を作成できることを目的とする。

■ サービス・ラーニング(R8前期～順次実施予定)

地域が抱える課題解決等を通じて、資質・能力や社会性を高める科目(サービス・ラーニング科目)の新設に向け、検討を進めています。

③ 現場実践能力向上に資する教育改善

■ 附属学校との連携授業(R6前期～)

附属学校の先導的な教育実践を学べるよう、3年次前期の必修科目「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の授業の一部を附属学校教員が担当しています。

■ 教育センターとの連携授業(R7後期～)

教師としての必要な資質・能力向上に資するため、「キャリア形成B」の授業の一部を北九州市立教育センターとの連携により実施しています。

■ 「教職実践演習」における特別支援教育に関する内容の拡充(R8前期～)

教職課程の集大成の場として位置づけられている4年次・必修科目「教職実践演習」の授業内容を見直し、令和8年度から特別支援教育に関する内容を拡充します。

皆さんの学びがより効果的になるよう、新たに決定・実施されている（一部検討中のものを含む）主な教育改善のポイントを紹介します。

② 学生の自律的な学修を促す制度導入

■ 「副専攻(マイナー)科目パッケージ」制度(R7前期～)

目指す教員像に応じて、主体的に学びを広げ深められる5つの科目パッケージをスタートしています。

5つの副専攻(マイナー)科目パッケージ

- 教師がキャリアを積む中で共通的に身に付けるべき資質を示した「教員育成指標※」の「5つの柱」をベースに構成
- 身につけたい資質・能力に応じて、学生が主体的に学びを広げ深められることを目指す
- 所属する課程等のカリキュラムに加えて、さらに学校現場に求められる資質・能力を向上する機会を得られる
- 卒業生の現職教員や学校長を対象としたアンケート調査結果からも、これらの資質や能力の向上が求められている


非認知能力向上
科目パッケージ


特別支援教育向上
科目パッケージ


データサイエンス・AI
科目パッケージ


ICT活用力向上
科目パッケージ


教職マネジメント向上
科目パッケージ

※文部科学省策定「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針に基づく教師に共通的に求められる資質の具体的内容」

参考：本学HP「副専攻(マイナー)科目パッケージについて」

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/center/cmtl_center/minor_course_package.html



■ 先取り履修制度(R8前期～)

学業優秀な学部学生が、早期に教職大学院で開設している授業科目を履修することができる制度を導入・開始します。

参考：本学HP「先取り履修について」

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/faculty/division_professional/index.html#07



④ その他

■ Edu CoxLabオープン(R6前期～)

「教育の共創の場」として共通講義棟1Fに整備。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションといった多様なシーンにあわせて活用されるよう設備を導入しています。

■ シラバスの改善(R7前期～)

身につけるべき資質・能力の指針であるディプロマ・ポリシーと各授業科目との関連が一覧で明示できるようフォーマットの改善を行っています。

これらの改善は、「学生アンケート」や「授業評価アンケート」等の皆さんのご意見も参考としています。また、その他にも福岡教育大学は、教員による授業内容・方法の改善を恒常的に実施しています。

参考：本学HP「教育改善への取組」

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/faculty_development.html

福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、福岡市教育委員会と連携し、「ふくおかティーチャーズガイド」を開催

教師の魅力を広く発信することを目的として、福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、福岡市教育委員会と連携し、本学オープンキャンパスと同日の令和7年7月19日（土）に「ふくおかティーチャーズガイド」を開催しました。

「ふくおかティーチャーズガイド」では、「仕事のやりがい」や「何故教員を目指したのか」など現役教員による講話、教員の業務体験ができるワークショップ及び個別相談会を実施しました。小学校・中学校・高校の校種ごとに複数回行い、のべ355名もの高校生・保護者等の参加がありました。

参加者からは、「学校の先生には直接聞けないことを聞くことができた」「教員就職後の自分をあまり想像できていなかったが、現役の先生から実際の体験を聞いて、どんな先生になってどんなふう子ども達と向き合いたいのか、考えることができた」、「自分が先生になれるのかずっと不安だったが、話を聞いて少し自分に自信を持つことができた」などの感想が寄せられました。また、各回終了後に講話を担当した講師等へ、個別に質問をする参加者の姿も多く見られました。

本学では今後も教師の魅力発信のため、教育委員会と連携した様々な取組を続けて参ります。



現役教員による講話の様子



福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、本学、福岡市教育委員会の関係者

令和7年度うきうきTeacher!～教師の魅力発見プログラム～を開催

令和7年10月19日（日）に本学主催による「うきうきTeacher!～教師の魅力発見プログラム～」を開催しました。本イベントは、社会的・職業的自立を目指すキャリア教育の一環として、小・中学生に教師という職に興味や関心をもってもらうことを目標としており、小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒約260名が参加しました。

イベントでは、本学教員の専門的知識や技能を活かした15のプログラムを実施しました。参加した小・中学生は、各プログラムをとおして、教師の仕事の一端を体験し、人に教えることの難しさや楽しさを学んでいました。

本学の学生もイベント運営に携わり、「学校外での児童との関わりを持つという機会はなかなか無かったため、とても貴重な体験となった。」「小中学生との関わりが教師になることへのモチベーションになった。」との声が聞かれました。

本学では、今後も教師の魅力を体験できるようなプログラムを

充実させ、本事業をより発展的に取り組んで参ります。



当日のプログラムの様子

3 国立特別支援教育総合研究所と連携・協力に関する協定を締結

本学と独立行政法人国立特別支援教育総合研究所は、特別支援教育を担う教員の資質向上と地域課題の解決に向けた研究における連携・協力体制をとることにより、国の特別支援教育及びインクルーシブ教育システムの構築・推進並びに関連分野の発展・推進に寄与することを目的として、連携・協力に関する協定を令和7年7月4日（金）に締結しました。

本学は、特別支援学校教諭免許状のすべての障害種領域の養成課程を設置しており、九州・沖縄地方における教員養成の拠点大学であるとともに、特別支援教育の総合大学としての知見を有しています。一方、特総研は、特別支援教育に係る我が国唯一のナショナルセンターとして、国の政策課題や学校現場の喫緊の課題に応える研究や教師の専門性の向上に資する研修、研究成果の普及や特別支援教育に関する広い理解啓発のための情報普及活動等に取り組んでいます。

協定締結により、双方の強みを掛け合わせ、国の特別支援教育及びインクルーシブ教育システム構築への一層の寄与となるよう取り組んでまいります。



飯田学長(左)と中村国立特別支援教育総合研究所理事長(右)

4 北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学 未来共創シンポジウム教員養成改革の未来を展望する —3大学共同による博士後期課程設置の視座から—を実施

令和7年8月9日（土）、東京都内のトラストシティカンファレンス・京橋において、対面およびオンラインのハイブリッド形式により、シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、本年4月に3大学が博士後期課程「共同学校教育学専攻」を、教員養成系大学による共同博士課程として実に13年ぶりに設置したことを契機に、新たな時代に貢献する教師の育成について多角的に展望することを目的としたものです。

当日は、博士課程への進学を希望する学生、現職の学校教員、大学教員等、対面・オンラインを合わせて102名が参加しました。

本学西山久子教授の司会進行により、冒頭では、北海道教育大学の後藤ひとみ理事より、基調報告として、教員養成系博士課程の設置趣旨についての説明が行われました。

続く第1部では、文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課長の大江耕太郎課長より、教員養成の高度化に向けた取り組みについて説明がありました。

第2部では、蛇穴治夫 前・北海道教育大学長、林泰成 上越教育大学長、水野治久 大阪教育大学副学長による教員養成および教員養成学に関する示唆に富む発表と提言が行われました。

参加者からは、「臨床的研究の意義と必要性を理解できた」「教員養成の重要性を再認識し、多くの学びと刺激を受けた」「自分自身が博士課程でどのように成長していけるか、未来が楽しみになった」などの声があり、本シンポジウムを通じて、博士課程設置の意義、そして

教員養成における新たな可能性について、多くの気づきと示唆を得ることができました。

閉会に際して本学飯田慎司学長より、「今後の教員養成は、大学が単独で担う時代から、連携と共創によって未来を築く時代へと移行しつつあります。北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学の3大学は、引き続き連携を深め、教員養成の質の向上を図るとともに、個別の地域にとどまらず全国レベルでの教育課題解決に貢献する臨床研究を推進してまいります。」との挨拶があり、盛況のうちに幕を閉じました。



シンポジウムの様子

5 株式会社内田洋行と包括事業連携協定を締結

本学と株式会社内田洋行（以下、内田洋行）は、ICTを活用した未来志向の教育環境の構築および、地域に根ざした持続可能な学びの創出を目的として、令和7年9月3日（水）に本学附属福岡小・中学校において包括事業連携協定を締結しました。

協定締結により、今後は、本学附属学校の福岡・小倉・久留米の3拠点に整備した未来の学習空間「フューチャークラスルーム」（以下、FCR）を活用して、FCRの開発元である内田洋行と産学の知見を結集し、新たな教育環境の実証・検証・改善に継続的に取り組み、学びのイノベーションをさらに加速させていきます。



締結式出席者による記念撮影

6 本学卒業生でパリパラリンピック金メダリストの瀬戸勇次郎氏が ゲスト講師として授業を実施しました

令和7年12月24日(水)に、本学卒業生でパリパラリンピック柔道男子73kg級(弱視)金メダリストの瀬戸勇次郎氏(福岡県立糸島高等学校 教諭)が、教養科目「オリンピック・パラリンピック教育」(担当:保健体育研究ユニット 榊原浩晃教授、檜崎教子教授)の授業をゲスト講師として担当しました。「パラリンピックのクラス分け」というテーマで行われた授業では、クラス分けの目的をはじめ、各競技におけるクラスや実際のクラス分けの流れなど、パラスポーツのアスリートとしての自身の経験を踏まえて解説が行われました。授業の様子をTVQ九州放送に取材いただきました。放送内容は、下記関連リンクよりご覧いただけます。

授業実施後、瀬戸氏は榊原教授と檜崎教授とともに学長室を訪問しました。授業のテーマであるパラスポーツにおけるクラス分けのほか、福岡県立糸島高等学校での保健体育科教諭としての教員生活や、自身の今後のキャリアについて、飯田学長、梅澤理事、木原理事及び田中監事と懇談を行いました。



瀬戸氏による授業の様子

7 宗像市及び福岡県教育委員会と特別支援教育に関する 連携協定を締結しました

本学と宗像市及び福岡県教育委員会は、宗像市や県内特別支援学校等とより密接な関係を築き理論と実践の往還を深化させることによって、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を目指すことを目的として、令和8年2月10日(火)に福岡県立むなかた特別支援学校(本学敷地内に令和8年4月開校予定)において、連携協定を締結しました。

協定締結により、本学の特別支援教育に係る教育・研究機能を最大限に高めることで、福岡県の先導的な特別支援教育モデルを開発し、県の特別支援教育を推進する拠点としての役割を果たしていきたいと考えております。



締結式出席者による記念撮影

8 ムナカタ・アート・クラブ V期を開講

宗像市および近隣地域の中学生を対象に、美術の専門的な指導、アトリエ・美術館見学を体験する活動を実施します。これは部活動の地域展開に向けた研究として、科学研究費助成事業基盤研究(B)「中学校美術部活動の地域移行に関する研究」(25K00798 研究代表者:千本木 直行)の一環で行うものです。

令和8年度はV期として、令和8年5月から令和9年3月(8月、12月は除く)まで、月2回の活動を本学の大学院美術棟などで実施予定です。美術教育研究ユニットの教員及び美術専攻の学生が主な指導者となり、各回を担当します。美術の制作経験は問いませんので、お気軽にご参加ください。

ムナカタ・アート・クラブ

福岡教育大学の研究プロジェクトによる
中学校の美術部の地域展開モデルとして、
ムナカタ・アート・クラブV期がはじまります。

V期の中学生募集

活動期間 2026年5月から2027年3月まで(8月、12月は除く) 月2回/第1・第3土曜日
(午前の部)9:30-11:30 (午後の部)13:00-15:00

対象者 午前・午後各回定員15名
費用 月2,000円前払い

活動場所 福岡教育大学(福岡県宗像市南門本町1-1)

申し込み オンライン申し込み、先着順。4/25(土)受付開始
※2025年度は定員が定数です。定員超過の場合は抽選となります。抽選結果は4/25(土)の抽選結果発表ページで発表いたします。

すべての申し込み・詳細は、
福岡教育大学ホームページ「イベント情報」や後援校の
「ムナカタ・アート・クラブV期」のページをご確認ください。

ムナカタ・アート・クラブV期 チラシ

令和7年度福岡教育大学学生表彰式を実施

令和8年2月18日(水)、本学第一会議室において、令和7年度福岡教育大学学生表彰式を行いました。

本表彰は、研究、課外及び社会活動等において、特に顕著な成果や功績を収めた本学学生及び学生団体を表彰するもので、今年度は14名・1団体の学生が表彰の対象となりました。

本学後援会会長及び役職員が見守る中、飯田学長から表彰状と後援会よりいただいた副賞が贈呈されました。飯田学長から「本学の良き伝統の継承者となり、大変誇りに思います」、門司後援会会長から「皆さんの多岐にわたる活躍は福岡教育大学の誇りであり、後輩たちの大きな目標になることだと思います」とお祝いの言葉が贈られました。

これを受け、受賞者を代表して、初等教育教員養成課程 田村真鈴さんから「今後、自らの能力をより高められるように研鑽に努め、種々の活動を通じて、更に飛躍を期したいと思います」との抱負が述べられました。



学生表彰受賞者と飯田学長(中央右)、門司後援会会長(中央左)

「令和7年度福岡教育大学優秀教育実習生賞」表彰式を実施

令和8年2月18日(水)に「令和7年度福岡教育大学優秀教育実習生賞」表彰式を挙行了しました。

この賞は、「教育実習生としての教育的愛情、使命感の自覚、授業や学級経営等における教育方法の創意工夫、そして同僚と共同しながら切磋琢磨してきた数々の努力と工夫に敬意を払い、その功績を称えること、及び本学の先輩として実習経験を後輩に継承すること」を目的として創設されました。本年度は12名の学生が受賞し、飯田学長から代表者へ、表彰状及び後援会からの副賞が贈呈されました。

表彰式の後には、昨年度に引き続き、優秀教育実習生を受賞した学生による座談会を行いました。学生同士の交流を通して、教育実習で印象深かったことや授業作りなどを通して認識が変わったこと、子どもとの信頼関係を築くために意識したことなど、自身の教育実習を振り返るとともに、教員採用試験に向けての取り組みや卒業までの過ごし方などについて、それぞれの考えを語り合いました。同席した教員からは、学生の将来への激励の言葉が述べられ、座談会は盛会のうちに終了しました。



優秀教育実習生賞受賞者と正面前列左2番目から石丸学部長、門司後援会会長、飯田学長、相部理事、坂本附属学校部長



座談会の様子

飛笑

初等教育教員養成課程2年

いけだ ななみ
池田 奈々美

こんにちは。お笑いサークル「飛笑」です。現在、演者9名・裏方8名の17名が所属しています。2024年に設立し2025年に大学公認サークルになりました。私たちは「お笑いを通して学生や地域の人々に笑いを届けること」を大切に活動しています。今年度は学内における定期ライブの他に、周辺地域の公民館やお祭り、商業施設などでも複数公演を行いました。

月2回の会議では、公演を開催するための準備や議論を行ったり、演者が新しいネタを披露して改善点を出し合ったりと、観客の方々が笑顔になるようなお笑いを届けられるよう日々切磋琢磨しています。

お笑いサークルと聞くとパフォーマンスを行う演者に目が行きがちですが、一方でサークルを支えているのは裏方だと言っても過言ではありません。

ん。それぞれが自分が得意な分野を活かして、SNSに掲載する定期ライブのフライヤーの作成、公演中の音響管理やライブMCなど、様々な仕事を行ってライブをより盛り上げています。

定期ライブの様子や告知、演者の紹介はInstagramでご覧いただけます。ぜひ@utef_hisho のフォローをお願いいたします。お笑いに興味がある方、人を笑顔にしたい方をお待ちしています。



UTEF_HISHO



サークル紹介

C I R C L E I N F O R M A T I O N



陸上競技部

中等教育教員養成課程3年

か い ゆき な
甲斐 倅菜

陸上競技部です。

本競技部は、「戦えるチームに」を目標に掲げ、部員一人一人が高い意識をもって日々の活動に取り組んでいます。現在、部員は約30名在籍し、短距離・長距離・跳躍・投擲など、それぞれの専門種目で目標を持ちながら活動しています。

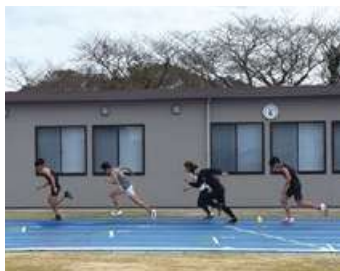
活動日は週5日で、基礎体力づくりや専門練習、補強トレーニングを中心に計画的な練習を行っています。記録や結果に正面から向き合い、仲間と声を掛け合いながら、個人とチームの両面で力を高めることを大切にしています。高い目標に挑戦する中で、思うように結果が出ない難しさを経験しながらも、日々の練習に励んでいます。

また、宗像市で開催されているプリンセス駅伝や福岡国際マラソンの運営補助、福岡県タレント発掘事業などのボランティア活動にも参加し、

地域との関わりを通して学びを深めています。競技を「支える側」の立場を経験することで、陸上競技への理解を深め、人としての成長にもつながっています。日々の活動の様子はSNSでも発信しており、選手の紹介や練習風景、大会に向けた取り組み、マネージャー企画などを通して、チームの雰囲気や日常の一幕を伝えています。ぜひチェックしてみてください。



UTEFTRACKANDFIELD





授業の様子

初めて子どもの前に立ったあの日

初めて子どもたちの前に立った附属小倉小学校での教育実習二日目。一時間の授業のために、何日も構想を練り、教材研究を深めてきました。それなのに、いざ子どもの前に立つとドキドキが止まらない。心臓の音が大きく聞こえます。そんな私を救ってくれたのは、子ども達の一生懸命な姿でした。授業後に言われた「今日の授業楽しかった!」という一言。その一言が、今でも私の心を掴んで離しません。あの喜びを忘れることができずに、今でも教師を続けています。そんな素敵な瞬間が、附属小倉小学校にはあります。



教育実習生と児童たち

自分のペースで成長し続ける日々を

そんな私も、今度は教師として附属小倉小学校に赴任しました。ここでは、高いレベルの研究、授業が求められます。毎日、素敵な先生方と切磋琢磨しながら自分の学びを深めています。しかし、私は決して人より優れているわけではありません。これまで、たくさんのことを失敗しました。今でもたくさん失敗をしています。しかし、失敗はより良い教師となるチャンスです。皆さんの中にも自分に自信をもてない人がいるかもしれません。でも大丈夫! 私も失敗をして、そこからできることを増やしてきました。皆さんにも、自分のペースで一歩ずつ、成長し続けてほしいと思います。



授業の様子



運動会

笑顔いっぱいの教師人生を

私は趣味で写真を撮っています。そのような自分の時間を大切にすることで、笑顔で子どもの前に立つことができます。子どもと笑顔で過ごすことは、何よりも大切なことです。皆さんにも、仕事も自分の時間も大切に、笑顔いっぱいの教師になってもらいたいと思います。そしていつの日か、同じ教師として笑顔で会いましょう。



仕事も自分の時間も大切に。

福岡教育大学附属小倉小学校
ひだか しんいちろう
教諭 日高 慎一郎 さん

・障害児教育教員養成課程初等部
(平成22年卒業)





本の道しるべ

～私の心に残った一冊～

人生や考え方、価値観に深い影響を与えてくれた一冊との出会いは、いつまでも心に残るものです。本企画では、紹介者から感銘を受けた本をご紹介します。読むたびに新たな気づきや感動を与えてくれる一冊が、皆さんの心にも何かしらの響きをもたらしてくれるかもしれません。



中央:豊村 雅義 学術情報課長
左 :松前 隆志 学術情報課主査
右 :石丸 律子 学術情報課主査

紹介者 学術情報センター図書館 学術情報課長 豊村 雅義

書籍名

オーケストラ指揮法 ー全ての人の心を一つにするためにー

高木義之 2007年 総合法令出版

「音楽」、「指揮者の技術」の本かと思いきや、(もちろんそれがメインですが)、人間関係の築き方、人とのよりよいコミュニケーション、ひいては人生のあり方など、多くの示唆に富む良書です。

著者の高木義之氏は、工学部のご出身で松下電器(現在のパナソニック)に28年在職され、製品開発の現場で手腕を発揮されるとともに、オーケストラや合唱の指揮者、合唱連盟の理事などを歴任された異色の「指揮者」です。その経験から「指揮法」について書かれています。…が、それにとどまりません。高木氏は交通事故に遭い、生死の境をさまよい、絶望の全身麻痺の状態から、奇跡の回復を果たされ、その経験から、合唱の指導のあり方、家族のあり方、人間関係の築き方、心の持ち方、等々…を見つめ直されました。そして、本業のシステム開発の成功のみならず、子育て、事故前に果たせなかった悲願の合唱コンクール日本一の達成など、多くの実りを実現されたことが書かれています。

この本は、「オーケストラ指揮法:地球大予測 2」(1996年刊)を一部加筆、修正、再編集されたものです。新旧両方とも本学図書館に所蔵されています。しかし、ラベルに示された請求記号(分類番号)が違います。その理由を考えることで、図書館情報学の勉強にもなりそうです。



紹介者 学術情報センター図書館 学術情報課主査 松前 隆志

書籍名

西洋の書物工房 ーロゼッタ・ストーンからモロッコ革の本までー

貴田庄著 2000年 芳賀書店

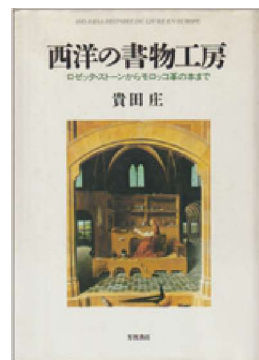
普段、仕事の資料なんてホチキスでカチッと止めておけば十分だと思っています。でも、「この資料を将来にわたって誰かに読んでほしいか?」と聞かれたら、自信を持って頷けるものは一つもありません。

本書は、粘土板やパピルス、羊皮紙から紙へと移り変わる書写素材の変遷と、芸術の域にまで高められた装本の世界を紹介した資料です。書物がどのように発展し形づくられてきたのか、その背景が豊富な図版とともに丁寧に示されています。

書物は、知識を記録し伝えるものですが、特に革装本や、ウィリアム・モリスによるケルムスコット・プレスのページを眺めていると、そこに注がれた執念のような熱量から、単なる記録媒体としての役割を超えて工芸・芸術性が高められていることに気づかれます。こうした書物の「素材」や「かたち」への追求は、文化の伝達や学びの広がりとも深く結びついています。書写素材の変遷は、学問を支えた写本文化の拡大に寄与し、書物のコデックス(冊子体)への変化は学習効率の向上に貢献しました。そして、グーテンベルクが印刷術を広め、書物が「工業製品」になったことで、教育は一般の人へ広がり、現在では電子書籍やデジタル教材の登場によって、学びはより自由で個別化されたものへと変化しています。

でもその一方で、「本を愛でる」感覚を、どこかに置き忘れてきたような気がします。

画面をスワイプすれば情報が手に入る今だからこそ、「物としての本」の歴史を辿ってみるのはどうでしょうか。読み終えた後、手元にある一冊の本の重みが、昨日までは少し違って感じられる。そんな体験をさせてくれる一冊です。



紹介者 学術情報センター図書館 学術情報課主査 石丸 律子

書籍名

捨てられ公爵夫人は、平穏な生活をお望みのようです

カレヤタミエ 2025年 TOブックス

コロナ禍で家にこもる日々、韓国ドラマや電子書籍を楽しんでいた折、原作小説がWeb公開されている作品があることに気づきました。そこから「小説投稿サイト」という世界を初めて知り、無料で読める作品や書籍化前の投稿が多数存在することに驚き、一気に夢中になりました。

そんな中で出会ったのが『捨てられ公爵夫人は、平穏な生活をお望みのようです』です。嫁ぎ先へ向かう道中、前世の記憶を取り戻した公爵令嬢は、自分が「悪役令嬢として破滅する運命」にあると気づきます。家族からも愛されず、結婚相手にも「愛するつもりはない」と告げられる始末。しかし彼女は慌てず、「でしたら、私も好きにさせていただきます!」と宣言。別居を選び北方の僻地を領地として手に入れたと、前世で培った知識を活かし、土壌改良から都市計画、林業、食の改善、医術の刷新まで、領主として多方面の改革に挑みます。描写は緻密で雑学も含め知識量豊富。人々に寄り添い導き、共に成長していく姿には説得力があります。極端な悪役が登場せず、安心して読み進められる異世界ファンタジーです。

Web版は1話約4,000字で、原稿用紙10枚分をほぼ毎日更新していた計算になり、現時点で576話。作者の綿密な世界構築には感嘆を禁じ得ません。投稿サイト発の大人気作として書籍化・コミカライズもされており、Web版・書籍版どちらもおすすめです。

ラノベ侮るべからず——ライトノベルの奥深さを実感させてくれる作品です。



後援会・同窓会からの お知らせ

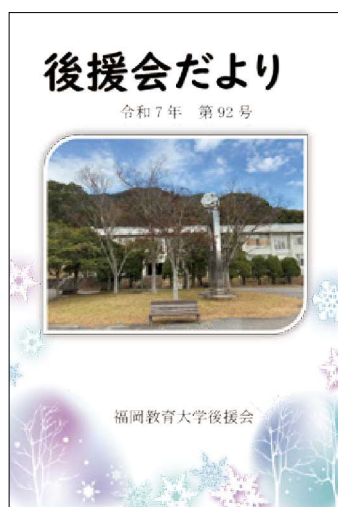
後援会

「後援会だより」第92号発行のお知らせ

「後援会だより第92号」を12月に発行し送付しました。今回は清水副学長・太田同窓会会長のご寄稿や、就職支援や学祭などについて掲載しています。

ご意見ご要望などがございましたら、下記事務局までご連絡ください。

令和8年度後援会総会は紙面開催とさせていただきます。新年度お手元に届く資料をご確認ください。



福岡教育大学後援会 事務局
Tel/FAX:0940-33-8070
e-mail:kouenkai@eos.ocn.ne.jp

じょうやまい
同窓会城山会

第20回「城山同窓の集い」

11月9日(日)に筑後地区の実行委員会のお世話でホテルニュープラザ久留米を会場として開催しました。各県支部6県、県内26支会、参加総数338名の大盛況でした。大学からは、学長 飯田慎司様はじめ8名の役員の皆様、ご来賓として福岡県副知事 江口勝様、教育長 寺崎雅巳様はじめ、福岡県・筑後地区の教育委員会の皆様方、他多数の方々をお迎えしました。懇親の場では、学生時代の思い出や教育の話に花が咲きました。会の最後には、参会者一同で、本学応援歌「我等ぞ覇者」を斉唱しました。絆をさらに深める楽しい会となりました。



福岡教育大学同窓会 城山会事務局
TEL/FAX:0940-33-2211
e-mail:jouyamakai@able.ocn.ne.jp

福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。特に「修学支援事業基金」では、経済的理由により修学に困難がある学生が、希望する教育を受けられるように、皆様からいただいたご寄附を、学生のために特化して活用します。寄附をされる際に、「修学支援事業基金」と事業を特定してください。広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

インターネット(クレジットカード払い)による寄附金の受付を開始いたしました。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課

TEL:0940-35-1218 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

アンケートに答えて福教大オリジナルグッズをGET!

今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見・ご感想をお寄せください。

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様に『福岡教育大学オリジナルグッズ3点セット』をプレゼントします。

※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

こちらのフォームからご応募ください。



応募締切

令和8年5月31日(日)



<アンケートにおける個人情報の取扱いについて>
ご提供いただいた個人情報は、プレゼントの発送以外には使用致しません。



抽選で5名様に

福岡教育大学オリジナル
サインペン&ボールペン&メモ帳



(2019年度 卒業生)

(2001年度 卒業生)

Joyama通信 vol.59

福岡教育大学広報誌第59号 2026年3月31日
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1
TEL.0940-35-1205 FAX.0940-35-1259
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp
ホームページ: <https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



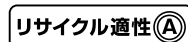
大学HP



X



YouTube



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。